

<第一の柱：地域ぐるみの家具固定と耐震補強>

- 1 目標：10件の耐震補強を実施すると共に、家具固定に対する市の助成制度を確立する。
- 2 主な活動
 - (1) 市民の家具固定活動を応援して世論を盛り上げ、平塚市に家具固定助成制度の確立を要請し、実現する。工務店による本格的な固定に加え、篠原進氏、横浜国大との連携を進める。
 - (2) 耐震診断・耐震補強工事の展開
地震被害を軽減するには家具固定だけでは不十分であり、耐震性に欠ける家屋の補強が必要である。直下地震をはじめ関東への大地震が迫る中、これまでに培ってきた自治会をはじめ、様々な市民活動グループとの連携を生かしてあらゆる可能性を追求し、何としても10件の耐震補強を達成する。
 - (3) 地元の防災イベントの成功
第4回ひらつな祭りをはじめ、広範な団体との連携による地元防災イベントを成功させる。

<第二の柱：地域力の向上>

- 1 目標：文化部会、福祉部会が中心となり、様々な困難と課題に直面する市民と連携し、生命と暮らしを守る地域力を育くむ。
- 2 主な活動
心身障害者の方々を支援する心の唄コンサート、平塚の囲碁クラブ「浜風」と連携した囲碁普及活動など多彩な文化活動、福祉活動、まちづくり活動を進める。

<第三の柱：全国連携の推進>

- 1 目標：各地の防災活動、まちづくり活動を横につなげ、大きなうねりとする。
- 2 主な活動：
 - (1) 「心のケア＝被災地支援活動」（7月19日～21日 南三陸町／大船渡市・碓石海岸）
当協議会が呼びかけて広範な実行委員会（木谷正道委員長）が結成され、囲碁百面打ち、視覚障害者用碁盤を活用した三陸鉄道「囲碁列車」、仮設住宅への無料家具固定、認知症の予防・改善に向けた「囲碁療法」など多彩な企画が進行している（6月22日12時～NHKEテレで告知報道）。
NPOの横の連携を作り出す良い機会でもあり、思い切って取り組む。
<主催団体>碓石海岸で囲碁まつり実行委員会（木谷正道委員長）（日本棋院岩手県本部、日本棋院大船渡支部、碓石地区復興まちづくり協議会、囲碁のまち大船渡をつくる会、日本棋院墨田支部、日本社会人囲碁協会、日本視覚障害者囲碁協会、暮らしと耐震協議会、災害復興まちづくり支援機構、UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）、日本大学 糸長・藤沢研究室、東京いのちのポータルサイト）
 - (2) 「第2回首都防災ウィーク」（9月1日～7日、横網町公園、東京都慰霊堂、両国中学校）
昨年の成果を引き継ぎ、広範な団体と共に実行委員会を結成（代表：中林一樹・名大特任教授、事務局長：木谷正道理事長）して取り組みを進めている。9月7日（日）がメインで、首都防災フォーラム、防災囲碁300面打ちなどが計画されている。
<主催団体>首都防災ウィーク実行委員会（中林一樹委員長、木谷正道事務局長）、東京都慰霊協会、日本棋院、東京いのちのポータルサイト、日本棋院墨田支部、日本社会人囲碁協会、暮らしと耐震協議会
 - (3) 「第5回・21世紀の朝鮮通信使」（10月3日～5日、福山市鞆の浦）
日韓の囲碁棋士を招いてのイベントである。今年は、10月3日（金）に「日韓文化交流2014・鞆」を前夜祭として開催し、日韓の棋士、音楽家、在日囲碁ファンなどが参加して開催される。
今年の取り組みを踏まえ、来年は「21世紀の日本通信使」を韓国に派遣する計画である。
 - (4) 「心の唄2014～共に生きる」（11月29日、大井町きゅりあん大ホール）
昨年に引き続き、「高次脳機能障害者と家族の会」との共催で実施する。今年のようなイベント、日常活動の集大成として大成功させ、事業収益により当協議会の財政にも貢献する。会場は大井町駅前で、川崎や横浜からも至便であり、当協議会員の方々の知人をはじめ広範な方々に周知して取り組む。格段のご協力をお願いしたい。